

2023年度 第1回明石市文化財保護審議会 会議要旨

日時	2023年8月16日(水) 午後2時～午後3時30分
場所	市立文化博物館 大会議室
出席者	明石市文化財審議会委員 5名(うち会長1名) 事務局 5名(市民生活局文化・スポーツ室)
配布物	・2023年度第1回文化財保護審議会次第 ・市指定文化財の指定について(継続審議) ・明石市文化財保存活用地域計画事業について(報告) ・文化財標柱の設置について(報告) ・2022年度埋蔵文化財発掘調査事業について(報告) ・魚住文化財収蔵庫の展示公開について(報告)

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 会長・副会長の互選について

互選により、会長に冷泉氏、副会長に木村氏を選出

4. 議事

(1) 指定文化財の指定について(継続審議)

事務局より資料に沿って説明

<主な意見>

【旧大久保本陣母屋】

- ・指定に向けて、今後どのような調査を進める予定か。建築の専門の方にどれだけでも改装の手が入ってるかというのを明確にしてもらったほうがよい。
⇒文献資料は残存していないが、建築の専門家に建物を見ていただき、改修歴等を調査する予定である。

【赤根川金ヶ崎窯出土 角杯形土器】

- ・国内での出土例が非常に少なく、大変貴重なものであることは確かである。ただ、調査報告書が刊行されていないため、評価が非常に難しい。この窯自体の発掘調査報告書が刊行され、その中でどういう評価が与えられるかっていう話にならないと。

⇒現在調査報告概要書を作成しているので、次回に概要書を提出させていただく。

- ・これ単体ではいつのものかっていう詳しいことがわからないので、一緒に出てきている他の土器類、須恵器とともに一括で指定するという方向のほうがいいのではないかと思う。

【稲爪神社所蔵太鼓】

- ・修繕の来歴がきちんと残ってるという点を考えると、大変貴重な資料だと思

う。

- ・19世紀になると旧明石郡内で修繕が完結するようなシステムが、太鼓に関してはあったということがほぼわかる。旧明石郡内だけだったのか、もっと幅広い地域を対象としていたのか現時点では不明であるが、少なくとも布団太鼓の発展とともに産業として成り立ったのではないか。
- ・太鼓職人が大阪の淀屋橋の南詰にいたというのが、わかるのかもしれない。大阪との関係が、ここからわかってくるかもしれない非常に貴重なものだと思う。
- ・明石市内および兵庫県下の中で古い太鼓と比較していくとわかる部分もあるかもしれない。

(2) 明石市文化財保存活用地域計画事業について (報告)

事務局より資料に沿って説明

<主な意見>

- ・古民家活用について、温湿度管理に留意する必要のない文化財を保管するスペースとして活用できないか。

(3) 文化財標柱の設置について

事務局より資料に沿って説明

<主な意見>

- ・案内板に2次元バーコードを貼付し、そこから市ホームページにリンクすれば詳しい説明が見られるなどの工夫をしている自治体もある。今後そのようなシステムの導入を検討してほしい。
- ・案内板の設置管理を文化財担当以外の部署がされているものもあるが、案内板に記載されている文章や写真に誤りがないよう、文化財担当部署がチェックする必要があるのでは。

(4) 2022年度埋蔵文化財発掘調査事業について

事務局より資料に沿って説明

(5) 魚住文化財収蔵庫の展示公開について

事務局より資料に沿って説明